

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大見工業株式会社 新本社工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県安城市新田町新栄111番1、112番1、113番1、114番、115番1、175番の一部	構造	S造
用途地域	指定なし(法22条地域)	平均居住人員	70人
気候区分	6地域	年間使用時間	7,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年7月20日
敷地面積	8,933 m ²	作成者	浅倉 雪乃
建築面積	4,073 m ²	確認日	2023年7月28日
延床面積	5,755 m ²	確認者	浅倉 雪乃



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 85%
 ③上記+②以外の 85%
 ④上記+ 85%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 2.7	Q3のスコア = 3.2
音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.	機能性: 1.5 耐用性: 3.4 対応性: 3.8	生物環境: 3.0 まちなみ: 4.0 地域性: 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.2	LR2のスコア = 3.3	LR3のスコア = 3.0
建物外皮の: 1.0 自然エネ: 4.0 設備システ: 4.1 効率的: 3.0	水資源: 3.4 非再生材の: 3.5 汚染物質: 2.7	地球温暖化: 3.5 地域環境: 3.0 周辺環境: 2.7

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 48.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
大見工業株式会社 新本社工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体	
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数
Q 建築物の環境品質									3.0	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			T-2以上の性能を確保する	3.0	-	-	-	-		
1.2 遮音				-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-			
1.3 吸音			事務所は壁にGW、天井に岩綿吸音板を採用する	-	-	-	-	-		
2 温熱環境										
2.1 室温制御			エリアごとに空調リモコンスイッチを分ける	-	-	-	-	-		
1 室温				3.0	-	-	-	-		
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-		
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用			トラックヤードにトップライトを採用する	-	-	-	-	-		
1 昼光率				3.0	-	-	-	-		
2 方位別開口				3.0	-	-	-	-		
3 昼光利用設備				-	-	-	-			
3.2 グレア対策			事務所エリアでは照度700lx程度を確保する エリアごとに照明スイッチを分ける	-	-	-	-	-		
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-		
3.3 照度				3.0	-	-	-	-		
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-		
4 空気環境										
4.1 発生源対策			内装材はF☆☆☆☆とする	-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-		
4.2 換気			排煙窓のほか、開閉可能な窓を設ける 給気と排気の間隔を確保するよう配慮する	-	-	-	-	-		
1 換気量				3.0	-	-	-	-		
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-		
4.3 運用管理			適宜CO2濃度を計測し定期的に換気を行う	-	-	-	-	-		
1 CO2の監視				3.0	-	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-		
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ			一人当たりの執務スペースを13.3㎡確保する	0.4	1.5	0.40	-	-	2.7	
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	1.5	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性			天井高さを2.9m以上確保する 食堂やテラスを設けて、休憩機能を確保する 全体コンセプトを立て、パースで各室のデザインを検討している	0.5	1.0	0.50	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-		
3 内装計画				3.0	1.0	1.00	-	-		
1.3 維持管理			内装外装ともに防汚性に優れた仕上げを採用する 掃除道具の収納や清掃流しなど適宜設けている	0.5	2.0	0.50	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	2.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振			建築基準法に定められた基準の25%以上の耐震性を確保する	0.3	3.4	0.31	-	-	3.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.8	0.48	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	4.0	0.80	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			②	0.3	3.0	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-		
2.4 信頼性			②	0.1	3.2	0.19	-	-		
1 空調・換気設備				電気・ガスの複数の熱源種を採用する	3.0	4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					3.0	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備					3.0	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				天井ふところの高い箇所には振れ止めを設ける。	3.0	4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			0.2	3.8	0.29	-	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高を3.9m以上確保しゆとりのある空間とする	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり		1階倉庫の荷重設定を高く設定し、将来対応を可能にする	3.0	4.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.3	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	② 一部屋外に配管がされており、メンテナンスが用意である	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	4.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		十分な広さの倉庫を確保	3.0	4.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		窓を複層ガラスとし、断熱性能の向上を図る	3.0	1.0	0.20	-	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用		太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを利用。	3.0	4.0	0.10	-	-	-	4.0
3 設備システムの効率化		BEI=0.69	3.0	4.1	0.50	-	-	-	4.1
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器を採用する	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自 -	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自 - タイルカーペット、応接室・会議室	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自 躯体と仕上げ材の分別が容易な構成としている	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	2.7	0.22	-	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	2.6	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	2.0	0.33	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.33	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	2.3	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.33	-	-	-	
2	振動	独自	-	1.0	0.33	-	-	-	
3	悪臭		-	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

大見工業株式会社 新本社工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.13	
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.12	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:48.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 大見工業株式会社 新本社工場

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・工場と事務所が一体となった建物であるため、音環境や温熱環境に配慮した。 ・周囲に田畑や住宅があるため、植栽や建物形状に工夫をし、まちなみとの調和に配慮した。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・評価対象外
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者と協議のうえ、照明と内装を一体に計画したデザインとしている。 ・構造・設備計画において、十分な耐震性能を確保する。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地外周に緑地帯や緑化駐車場を設け、緑地面積の確保や景観づくりに配慮する。 ・庇下空間やバルコニーを設け、開放的な中間領域づくりに配慮する。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・トップライトや太陽光発電設備を設置し、自然エネルギーの有効利用に配慮する。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・内装仕上げに「持続可能な森林から産出された木材」を利用する。 ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能な計画としている。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲への風通しを損なわないよう、建物形状、隣棟間隔に配慮する。 ・駐車場、駐輪場を確保し交通負荷抑制に配慮する。 ・建物内外にそれぞれ、ゴミの分別保管が可能なスペースを確保し、廃棄物処理負荷抑制に配慮する。
その他	